



四季 ~四中の季節~

第10号 (2学期終業式)

『正しく学び 自他を尊重し たくましく生きる力を育み ふるさとと共に歩む』

令和7年12月25日発行

校長 関 勝志

〒187-0045

小平市学園西町1-3-1

☎ 042 (341) 4344

Mail gakkou@34.kodaira.ed.jp

「自分を振り返り、見つめ直す」

校長 関 勝志

令和7年がもうすぐ終わります。どんな一年だったでしょうか。人は様々な節目で自分の歩んできた道や時間、行動を振り返ります。学校生活であれば、学期の終わりや行事の後、試験の後、部活動の試合の後などです。振り返ってみると、良いことばかりではありません。むしろ失敗したり、思いどおりにならなかったりしたことが頭に浮かぶものです。

大切なのはそのあとです。「後悔」するのか、それとも「反省」するのです。「後悔」と「反省」は似ているようで違います。「なんであんなことしたんだろう」とか、「あの時ああしていれば…」と、悔やみ、くよくよすること、後ろ向きな気持ちが「後悔」です。それに対して、「自分のあそこがよくなかったんだから、次はこうしよう」と、自分の中にある失敗した原因を考え、同じ失敗を繰り返さないためにどうするか、次の行動を決めようとする前向きな気持ちが「反省」です。後悔するだけでは、気持ちが落ち込んで終わりですが、反省することは、成長につながります。

また、さらに深く反省することを「内省」といいます。失敗したことだけでなく、人としての自分自身の内面を客観的に省みること、見つめ直すことを意味します。道徳的な観点から、心のありかたや価値観について考え、自分はどうあるべきなのかということにまで考えを及ぼせることで、よりよく生きることにつながります。

事例をもとに、自分だったらどう振り返るか考えてみてください。

【事例1】定期考査の答案が返却され、ほとんどの教科で自分が思っていた点数よりも大幅に低かったとき、どう振り返りますか。

後悔 「あ～あ、ダメだな」「お母さんに叱られるな」「なんでテストなんかやるんだよ」

反省 「勉強時間が足りなかったからもうちょっと増やそう」「授業をもっと集中して受けよう」

内省 「勉強は自分のためなのに、考えが甘すぎる」「すぐ諦めてしまう性格を少しずつ改善しよう」

【事例2】バスケットボール（部活動）の試合で、自分が簡単なシュートを落としてしまい負けたとき、どう振り返りますか。

後悔 「あ～あ、ダメだな」「みんな怒ってるだろうな」「シュート落としたのは俺だけじゃない」

反省 「シュート練習をたくさんやろう」「大切なときに決められるよう緊張感をもって練習しよう」

内省 「精神的に強くなろう」「いざというときの決断力を高めるため、何事も率先して行動しよう」

【事例3】クラスメート数名が友だちのことを嫌なあだ名で呼んでからかっているそばで、自分も一緒になって笑って友だちを傷つけてしまったとき、どう振り返りますか。

後悔 「あ～あ先生に叱られる」「なんであれぐらいで」「遊びだったのに」「俺だけじゃない」

反省 「辛かっただろうな」「自分も言われたら嫌だよな」「対等の関係の友だちになろう」

内省 「もっと他人の気持ちを考えるようにしよう」「辛い思いをしている人がいたら助けよう」

「過ちて改めざる是を過ちと謂う」ということわざがあります。これは論語にある孔子の言葉です。人はだれでも過ちを犯すが、過ちを犯したことに気づきながらも改めようとしない、これこそ本当の過ちである、という意味です。過ちを認めることは、ダメな自分をさらけ出すことです。叱られることもあり、勇気が必要です。しかし、その代わりに「正直」な自分として、前に進むことができます。

振り返りは、失敗や過ちだけでなく、成功したことや良かったことを振り返ることもとても大切です。しかし、なかなか自分で自分を褒めることはできません。だからこそ、周りの家族や友だち、教員、地域の人たちが、良いところを見つけて伝え、褒めてあげることが大切なのではないでしょうか。



■玉川上水クリーン大作戦■

玉川上水クリーン大作戦は今年で3年目です。女子バスケ部と男子バスケ部、剣道部、野球部の生徒たち約70名が玉川上水周辺の落ち葉掃きに取り組みました。紅葉した落ち葉はきれいですが、時間が経つと逆に景観を損ねるようになります。また、落ち葉は排水溝を詰まらせたり、火災の原因になったりすることもあります。集めた落ち葉は向野農園さんの腐葉土等に活用していただきます。地域教育コーディネーターさんや上鈴木町自治会長さんにも協力していただきました。ありがとうございました。

地域で落ち葉掃きをしている人たちは高齢者が多いです。これからも四中生が「地域の力」として活躍してくれることを期待します。通りかかった人たちに「ご苦労さま、ありがとう」と声をかけてもらい、生徒たちはみんな笑顔になりました。



■校庭の一本松■

小平四中の校歌の中には「日輪は天にかがやき 赤松と雑木の森の 学び舎に光あふるる」という一節があります。開校当時は学校の周りに多くの松があったことが想像できます。それがいつしか姿を消してしまい、たった一本の黒松だけが、校舎（校長室）の西側にひっそりと立っていました。おそらく10周年の頃に植樹され、50年ぐらいかけて大きくなったと思われそうですが、虫に食われて枯れてしまいました。倒木の危険があるため、校舎に縛り付けてでも残そうとしたのですが、昨年3月にやむなく伐採してもらいました。伐採される様子を見ていたソフトテニス部の女子が「なんか悲しいな」とつぶやいていました。とても寂しい気持ちになりました。

今回、創立60周年の記念樹として、PTAから赤松を寄贈していただきました。校庭の植込みに植えて、生徒会本部役員がプレートを設置してくれました。金属製の立派なプレートは、本校の卒業生が作ってくれたものです。ありがとうございました。

赤松には「勇敢」「気高さ」といった意味があり、生命力が強い木です。赤松と共に四中生がたくましく成長することを願っています。

そして、生徒たちが大人になっても時々校庭を眺めて、「あの赤松大きくなったな」と成長を見守ってくれたらうれしいです。40年後、100周年の頃には、きっと校舎と丈比べしているでしょう。



【保護者の皆様へ】 ～児童生徒性暴力等の根絶～

本校では、生徒の人権を尊重するとともに、安全かつ安心な学校生活を送ることができるよう努めております。教職員等が指導上やむを得ず生徒から個別に相談等を受ける場合は、管理職に報告することを徹底するとともに、SNS等での個人的なやり取りを禁止しております。また、指導上必要な補助や介助、生命身体を守るための危険回避等で身体に触れる場合を除き、生徒に対する不必要な身体接触を行わないよう指導しております。過去におきまして、本校の教職員による生徒への性暴力はなかったと認識しております。

ご家庭におかれましては、学校生活における出来事について話し合う機会をもってください。お子様が「怖い」「おかしい」「モヤモヤする」「イヤだな」と感じる事があれば、学校にご相談いただくか、相談シートや各種相談窓口をご利用ください。相談シートは、性暴力等だけでなく、体罰等に関する相談も記載することができるようになっています。相談シート及び相談窓口の情報は学校ホームページに掲載しております。

私たち教職員は、今後も生徒たちの心と体を大切に守り、充実した学校生活を送れるよう努めてまいります。



児童・生徒を教職員等による性暴力から守るための第三者相談窓口
(保護者の方も相談できます。)